



2022年 4月 26日
第191号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集情宣担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



「横浜支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について(その4)」提案を受ける！！

JR東労組横浜地本は4月25日に横浜支社から表題の提案を受けました。労使議論を経てことし3月に桜木町営業統括センターおよび湘南・相模統括センターが発足し、ことし7月には小田原・伊豆統括センターの発足が控えています。今提案により、新たな（営業）統括センターの設置計画が示されました。施策により労働環境が大きく変化するため、組合員の不安が解消され、安全・健康・ゆとり・働きがいのある職場を実現できるよう、労使議論を行っていきます。

1. 実施内容

- 「川崎・鶴見統括センター（仮称）」
- 「横浜営業統括センター（仮称）」
- 「町田営業統括センター（仮称）」

2. 実施時期

2023年3月（予定）

川崎・鶴見統括センター



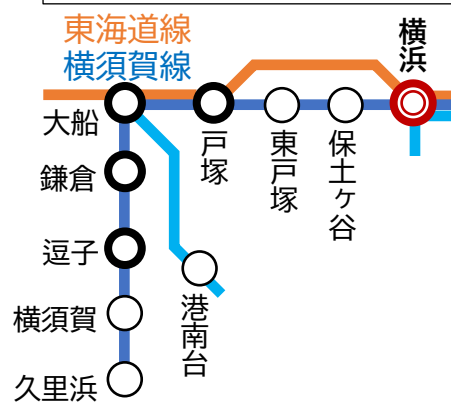
◎拠点駅

川崎駅

●融合される現業機関

川崎駅、鶴見駅、尻手駅、武蔵小杉駅、武蔵中原駅、武蔵溝ノ口駅、登戸駅、鶴見線営業所

横浜営業統括センター



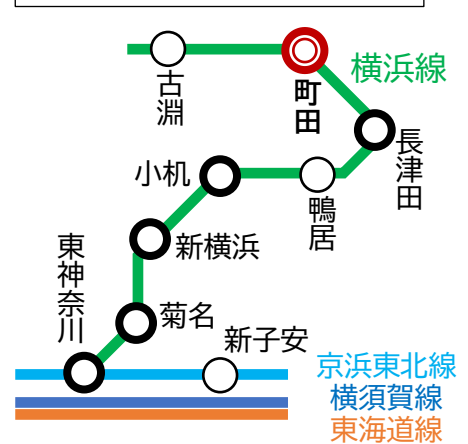
◎拠点駅

横浜駅

●融合される現業機関

横浜駅、戸塚駅、大船駅、鎌倉駅、逗子駅

町田営業統括センター



◎拠点駅

町田駅

●融合される現業機関

町田駅、東神奈川駅、菊名駅、新横浜駅、小机駅、長津田駅

3. その他

- ・新設する各（営業）統括センターの体制は別途提案を行う。
- ・各（営業）統括センターの円滑な運用に向けて、関係社員への兼務発令や、実施に向けた必要な教育、実施箇所での業務融合に向けた試行のための勤務種別変更などを行う。

【提案時議論】

組合	会社
エリア分けの根拠を示すこと。	・社員規模、地域の特性、線区単位で考えたい。 ・地区センターは将来的に集約していく。

新たな職場を担う私たちが問題点をチェックし、不安なく安全に業務できるよう議論を深めよう！